地域の輝き
磨く人たち

おらほノ魂

特集 第2回

白岩地域

中世には奥羽山脈の山裾に山城・平城が築かれ、城下が開けていた白岩地区。
その後、白岩焼の生産、玉川の水運と産業も発展し、今も歴史の足跡が残ります。地域づくりにも伝統があり、古くからの区長制を活かして、独自の運営方法を育んできました。

中世のロマンがあちこちに 訪ねてみたい、歴史の足跡

雲巌寺

雲巌寺の創建は今から五六〇年ほど前に白岩氏が開いたとされます。老杉の並木や、三〇〇年以上前に建てられた山門（県文化財指定）を見た瞬間、古の風情に圧倒されます。

歴史的なお宝も多く、平福穂庵による天井画や一八四〇年（天保十一年）に二十三代目の和尚が祀った白岩焼の千体仏（仙北市文化財指定）などが拝観できます。

ひっそりとした古刹に佇めば、心が洗われるひとときを過ごせます。

ささら

佐竹公がお国替えの時に従者が伝えたものが、各地域で獅子踊りなどが加わり、白岩・広久内・堂野口・下川原ささらと、それぞれの形になったといわれています。白岩小学校では、子供ささらを学ぶ伝統が継がれ、毎年7月から練習をしています。

白岩ささら▼八月七日、十三～十六日、二〇日
広久内ささら▼八月七日（足揃い）、十三～十八日、十九日（笠納め）
堂野口ささら▼八月十三～十七日

白岩焼

独特の色合いと質感が、奥ゆかしい品格を醸す白岩焼。

一七七一年に相馬の松本運七が窯を開き、最盛期には五千人の職人を抱える一大産業になりましたが、一八九六年（明治二十九年）の六郷地震をきっかけに窯が消滅しました。

昭和に入り、民芸運動の創始者柳宗悦氏、陶芸家で人間国宝の浜田庄司氏の助言、地元陶芸家らの尽力で一九九三年に復興されました。

川湊

広久内の頭首工の南東に広がる川原のあたりは藩政時代、大きな川湊でした。河川交通の要所として栄え、上流域から伐り出された木材や白岩焼の流通で賑わっていました。

七口（ななくち）

白岩前郷の通りから東側に踏み跡のような細い道があります。木の梢に覆われ、緑のトンネルのような様子がファンタジック。近所の人に聞いたところ「それは七口だ」とのこと。

七口について調べてみたら、次のようなことでした。鎌倉時代後半あたりから城や寺社へ入るための通り道と、そこに設けられた関所を七口と呼んでいました。京の七口、鎌倉の七口などが著名で、城下町だった白岩にあったというのもうなずけます。今も二つの道は通行に使われています。

白岩城主

白岩家は、「系図書」では桓武天皇を遠祖に仰ぎ、後に代々秋田城介に任じ、平安時代後期、白太郎重康のとき、羽州仙北郡城に住し、後三年の役では源頼義・義家に属して軍功を挙げたという。その後、時代は明らかではないが、下田美濃守盛国のとき、羽州仙北白岩城（角館町）に住したとある。

◆一二三二（貞永元年）
椿村十六沢城は下田美濃国盛国に落城す。
※一時、十六沢城に在城するが後に高屋敷の前郷山（琴平神社）に住む。
◆一三五四（正中九年）
下田美濃国盛国、戸沢氏盛に攻め落とされる。（以後、戸沢氏の家臣）
◆一四五〇（宝徳二）
白岩雲巌寺建立、城主白岩左馬之助盛基。（この頃、現在の館山在城か？）
◆一五〇一（文亀元）
白岩真乗寺（一向宗）建立、一五九四（文禄三）六郷へ。
◆一五九〇（天正十八）
豊臣秀吉の命令で館山より平城へ。
◆一五九一（天正十九）
城主白岩弥十郎盛正（下田美濃国の五代孫）秀吉の命により、二五〇騎を率いて大阪に登ったが、かの地で死去。
◆一六〇二（慶長七年）
城主白岩弥十郎盛家・戸沢政盛の家臣として常陸の国高萩（茨城）へ。
◆一六〇二（慶長七年）
多賀谷左兵エ宣家（初代秋田藩主・佐竹義宣の弟）白岩家の平城に駐在す。
◆一六〇四（慶長九年）
多賀谷氏の平城完成（現在の家並も）
◆一六一〇（慶長十五年）
多賀谷氏、檜山城（能代へ）
◆一六一三（慶長十八年）
白岩弥十郎盛家（一八〇〇石）、戸沢政盛（四万石）の家臣として常州（茨城）へ。
◆一六二二（元和八年）
白岩弥十郎盛家、戸沢氏の転封（国替え）で山形県新庄市へ。

中世の城下町が残るところ
ぶらり巡れば、時の旅

地域運営体について：仙北市では地域の身近な課題を地域住民が解決するなど、地域住民の自発的、自主的な活動を行う地域運営体の設立をすすめています。市の予算を、特産品づくりや起業などに有効活用することもできます。民分権を進め、行政も含んだ、総体的な仙北市の質を上げることがねらいです。

白岩小学校で見つけた、子育ての伝統

素直な子供に育む、白岩気質

「白岩小学校に赴任して、最初に驚いたのは、ＰＴＡ授業参観への保護者の参加率が、非常に高いことです。九九％といってよいでしょう」と金子俊隆校長は言います。何ごとにも真摯に向う気質が地域の伝統になっていて、授業参観の参加率の高さに現われているのではないか、とのこと。

そんな環境で育った子供達は、見聞きすることや人に、素直な姿勢で疑いをもたずに接するといいます。

「地域に力があるんです。頼りになる仕組みが。何をするにも区長さんがしっかりとさばいてくれます」と地域への信頼は絶大です。

また、地域住民で組織した「学校懇話会」が学校教育について協議するなど、地域全体で教育に取組む伝統があります。

▲子供たちに「将来イキイキした人になってほしい」と、金子校長のリーダーシップで経験と工夫が活かされた教育をしています。

▲左／伝統ある「白岩地区運動会」。今年は６月12日に開催されます。右／郷土を繁栄させた「白岩焼」が展示されています。また「ふるさと教育年間計画」に沿って「ささら」を習ったり、白岩城址燈火祭に地域の一員として参加するなど、白岩独自の活動も盛ん。

学校教育を地域で包むイメージですが、これが具体的に見えるのが、四十七年前から行われている「白岩地区運動会」です。

白岩小百合保育園、小学校の合同運動会に加え、白岩地区、薗田地区、広久内地区がそれぞれチームとして参加、地区対抗で競い、親交を深めます。白岩から他所へ嫁いだ人が、昔話の一番にこの運動会を挙げるほど、思い出に残るものです。

スポーツ、地域の交流、学校行事が一体化した、一朝一夕では実現しないこの行事、先人の地域づくりへの知恵と思いが込められています。それを、今も白岩の住民が気概をもって守っています。

▲白岩公の家紋“三ツ柏”の紋をモチーフにした白岩小学校の校章。三地区の調和を象徴しているようにも見えます。

▶毎年白岩出身者から故郷の子供たちのために本が寄贈されています。

白岩、薗田、広久内の区長制

3地区調和の仕組みを「財産」と住民は言います

白岩ならではの地域運営体は

区長制を活かしてフットワーク軽やか

昨年の八月に設立された「白岩地域運営体」。田沢に続きスピーディーに設立できたのは、「区長制度」と「白岩三地区交流会」というベースがあったからだといいます。

白岩を構成する「白岩」「薗田」「広久内」の各地区には、明治時代からそれぞれの地区の取りまとめをする区長がいます。

また「白岩三地区交流会」は、毎年首長を招いて、三地区の協同要望と地区それぞれの要望を陳情するという、地域運営体の先駆けともいえる取組みをしてきました。運営体の活動も区長制を活かして滑らかに進行。事業は予算を含めて地区に平等に配されるなど、調和を大切にする伝統が守られています。

薗田

区長◆菅原秀俊さん

二十年以上前には「二本杉クリスマスツリー」の実行をした菅原さんは、行動力のある若手の区長です。

「区長制そのものが白岩の財産だと思っています。運営体も区長制があるから、スムーズなのだと思います」と伝統を気概にしています。

今年度の事業

「薗田豊穣祭りの開催」「上花薗会館アスファルト舗装」「県道沿い水路周辺の整備」などを行います。

白岩

区長◆木元武志さん

雲巌寺や神明社、茅葺き家屋などが並んで風情のある前郷地区で、商店を営みながら白岩区長として地域を守る木元さん。区長歴十年以上、ベテランの風格があります。

木元区長率いる白岩地区は昨年度は直売所「夢畑」を開き。地域を元気づけました。

今年度の事業

「新たな白岩焼きの可能性への挑戦」を大事業に、「直売所『夢畑』への窓の設置」などを行います。

直売所「夢畑」

昨年度の事業で白岩地区によって生まれた無人の産直。みずほの里ロードの北部、館山にあります。風光明媚なみずほの里ロードは、ドライブルートとしても人気。取材時は、横手市から田沢湖へ向う観光客が採りだての山菜を見つけ、喜んで買物を楽しんでいました。基本は休日のみのオープン。季節に合わせたイベントなども行っています。

広久内

区長◆佐藤久志さん

昨年度は抱返りへ向う道の脇への不法投棄を無くそうと、広久内の住民がトラック三台分の投棄ゴミを処理。投棄されにくいように草を刈って看板を設置しました。

佐藤区長の指示で住民組織が一斉に動く、意気の合った組織です。

今年度の事業

「抱返り地区不法投棄防止フェンスの設置」「内沢林道整備」「5カ所の集会所の屋根の修理」などを行います。